

認知症を理解し支え合う



JR成田駅で啓発物を配布する小泉市長

毎年9月は「世界アルツハイマー月間」、9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。市では、この期間に「なりたオレンジプロジェクト」を実施し、認知症に関する啓発に取り組みます。

認知症を理解して 地域共生社会を実現

市では、健康寿命を延ばすための施策を推進すると同時に、認知症になっても住み慣れた地域で安心して日常生活を過ごすことのできるまち「地域共生社会」の実現に向けて、次のような取り組みを行っています。

なりたオレンジプロジェクト

世界アルツハイマー月間に合わせて、認知症に関する啓発活動を行う「なりたオレンジプロジェクト」を実施します。期間中は、市内事業者や空港関連企業、成田市認知症家族の会（オアシスの会）などと協働して、認知症への理解を広く呼び掛けます。

市では、認知症に関する講座を開催するほか、職員が認知症

支援のシンボルカラーであるオレンジ色を身に付けて、啓発活動を行います。

また、市役所1階に啓発コーナーを設置し、掲示物を見た感想や認知症に対する思いを書いた人を対象に、オレンジ色の花をモチーフにした、手編みのキーホルダーを配布します。

なりたオレンジプロジェクトの詳細は市ホームページで確認できます。



市ホームページ

そのほかの取り組み

介護予防教室「うなうなシャキッと元気塾」

認知症をはじめ、フレイル（虚弱）やロコモティブシンドローム（運動器症候群）を予防する総合的なプログラムです。エクササイズやタブレットを使っ

た脳トレなどを行います。

認知症サポーター養成講座

認知症に対する正しい知識と理解を広げるための講座です。対象は小学生から高齢者までで、企業や団体向けにも開催しています。受講者には、認知症サポーターの証として「オレンジリング」を交付します。

チームオレンジの活動

地域で暮らす認知症の人やその家族の困り事を、認知症サポーターがチームとなって支援します。現在、市内では10チームが活動しています。活動内容などの詳細は市ホームページで確認できます。



市ホームページ

※くわしくは介護保険課（☎20・1545）へ。



オレンジ色が目を引く啓発コーナー